

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門基礎科目	155	1年	後期	看護学科	必修	感染と免疫 Infection and Immunity	30	1
担当教員								
山田 武司								
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
感染症の起因微生物の種類・構造、病原因子についての基礎知識を習得すると共に、主な病原微生物による感染症について学ぶ。さらに微生物に対する化学療法や滅菌・消毒法の知識を習得し、感染防御に関わる免疫システムについて学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
病原微生物の種類と特徴を理解し、それらの微生物が引き起こす臓器別感染症の概要を理解する。また、免疫系のしくみと生体防御機構を理解し、感染症患者に対する基礎的知識を通じた感染防止対策・組織的活動について理解し応用力を身につける。								
① 感染源・感染経路が理解できる。								
② 滅菌と消毒法の意味について理解できる。								
③ 感染症の現状と対策について理解できる。								
④ 感染に対する生体防御機構について理解できる。								
⑤ 感染症の治療、化学療法剤について理解できる。								
⑥ 病原細菌と細菌感染症について理解できる。								
⑦ 病原ウイルスとウイルス感染症について理解できる。								
⑧ 病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物について理解できる。								
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）							
1回	微生物学の基礎（1）・微生物学の概要1（微生物と微生物学、細菌の性質）・山田武司							
2回	微生物学の基礎（2）・微生物学の概要2（ウイルスの性質、真菌の性質）・山田武司							

3回	感染とその防御(1)・感染と感染症、感染と免疫・山田武司								
4回	感染とその防御(2)・感染に対する生体防御機構・山田武司								
5回	感染とその防御(3)・感染源・感染経路、滅菌と消毒、感染症の検査と診断・山田武司								
6回	感染とその防御(4)・感染症の治療、化学療法剤・山田武司								
7回	感染とその防御(5)・感染症の現状と対策・山田武司								
8回	おもな病原微生物 (1)・病原細菌と細菌感染症1(グラム陽性・陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌)・山田武司								
9回	おもな病原微生物 (2)・病原細菌と細菌感染症2(グラム陰性通性桿菌、カンピロバクター属ほか)・山田武司								
10回	おもな病原微生物 (3)・病原細菌と細菌感染症3(グラム陽性・陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌)・山田武司								
11回	おもな病原微生物 (4)・病原ウイルスとウイルス感染症1(DNAウイルス)・山田武司								
12回	おもな病原微生物 (5)・病原ウイルスとウイルス感染症2(RNAウイルス)・山田武司								
13回	おもな病原微生物 (6)・病原ウイルスとウイルス感染症3(ウイルスの臨牀的分類ほか)・山田武司								
14回	おもな病原微生物 (7)・病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物・山田武司								
15回	感染症の治療と対策・「感染症の治療と対策」DVD視聴ほか・山田武司								
16回									
17回									
18回									
19回									
20回									
21回									
22回									
23回									
24回									
25回									
26回									
27回									
28回									
29回									
30回									
成績評価方法及び基準									
定期試験(筆記試験)により判定する。60点以上を合格とする。									
教科書	南嶋洋一・吉田真一「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学」(医学書院)								
参考図書等	藤本秀士・目野郁子・小島夫美子「病原体・感染・免疫」(南山堂)								
授業時間外の学習について(授業準備のための指示)									
前回の項目について配布プリント及び教科書等を参考に復習する。次回の項目について教科書等を参考に予習する。									
関連科目									
前科目	122	生物学							
後科目	154	疾病発生の機序	170	公衆衛生学(共通)	142	医療と安全(共通)			
実務家教員									
備考	随時必要に応じてプリントを配布する。講義内容のファイルを大学HPあるいはメールで配布することもある。								